

第2回 箕面市小中一貫教育推進計画検討会議 記録(視察報告)

第2回箕面市小中一貫教育推進計画検討会議に代えて、同会議構成員等で呉市の先進事例の視察を行いましたので、視察報告の内容を掲載いたします。

【日時】

令和5年2月17日(金)

【視察先】

呉市立長迫小学校、呉市教育委員会

【長迫小学校 視察結果】

- ・ 中学校区全体で「9年間を通して小中一緒に子どもを育てる」ことを意識されており、中学校区の実情に応じた取り組みを実践されていた。
- ・ 長迫小学校は3つの小学校と和庄中学校で1つの中学校ブロックを形成しており、中学校区全体での合同行事の実施や全教員が一同に会することは困難だが、できるだけ教員が学校間を行き来する機会を作るようにされていた。その工夫として、教員が学校間を行き来する日程については、前年度の内に中学校の予定を中心に決定しているとのことだった。
- ・ 小中一貫教育は、保護者にとっては見えにくい取り組みであることから、学校通信を使って積極的に取り組みを発信されていた。
- ・ 中学校区で目指す資質・能力、また中学校区のスピリッツが決められており、その目標に向けて中学校区全体で「静止礼や授業開始時の4秒礼」「アウトメディア」「小学校6年生のオープンスクール」「中学校の補習への小学校教員の参加」などの取り組みを時期を合わせて実施されていた。
- ・ 長迫小学校の小中一貫教育コーディネーターは、担任を持ちながら他校との調整役を担っておられた。ヒアリングさせていただいたところ「調整役としての業務量は増えるが、9年間を通して小中一緒に子どもを育てることの必要性を感じているため、負担感は感じていない」とのことだった。
- ・ 学校内の見学では、6年生の体育科における乗り入れ授業の様子や、3年生・4年生の授業風景を見学させていただいた。

中学校乗り入れ授業の様子（6年生体育科 バasketボール）



教室の掲示板。全教室に中学校区全体の目標が掲示されていた。



【呉市教育委員会 視察結果】

- ・ 呉市の一貫教育の特徴は、「学習指導要領に則っている」「全ての中学校区で実施している」「4-3-2の区分で実施している」「各中学校区の特色を活かした取り組みを行っている」の4つ。特に中期と呼ばれる5～7年生の区分では、中学校教員が小学校へ乗り入れ授業を行ったり、一部教科担任制を進めたりするなど、中学校へのスムーズな移行ができるよう、市全体として取り組みを進めているとのことだった。
- ・ 乗り入れ授業については基本的に定数配置の教員が行うが、小学校高学年の学級数が多い中学校区に対しては、市費で教員を加配されているとのことだった。なお、乗り入れ授業は、原則小学校教員とTTで実践されており、中学校教員が単独で授業を行うよりも効果的な授業となる上、小中両方の教員にとっても、学びにつながっているとのことだった。
- ・ その他の市独自の取り組みとしては「小中一貫教育研究事業」が挙げられていた。学校が小中一貫教育の研究を進めるための市からの補助事業であり、研究指定校には1年目20万円、2年目35万円を補助し、学校が小中一貫教育に関する取り組みを進めるためのサポートをされていた。

以上